

桜蔭中-対策法

国語 (100点/50分)

【1】【2006年出題内容】

大問一で論説文(高階秀爾「新版 日本美術を見る眼 東と西の出会い」約 4000 字)、大問二で物語文(岩瀬成子「となりのこども」約 7000 字)が出題されました。大問二は、本文が昨年の約 3 倍、記述は昨年より 100 字増えて 250 字になりました。物語文では、心情説明を問う設問が 2 題に定着したようです。

【2】【傾向と対策】

2006 年の大問一の設問は、次のようなものでした。

問一 a~d の片仮名を正しい漢字にしてください。

問二 傍線1に対抗するために、西欧においてどのような手段がとられましたか。これまで述べられてきたことをふまえて説明してください。

問三 十七文字しかない俳句の中に、季語を入れなければならないのは一見不便なきまりのように思われますが、そのきまりはどうして大事にされてきたのですか。本文の内容をふまえて説明してください。

問四 傍線2とありますが、西欧の詩人がこのような気持ちになったのは、どうしてですか。くわしく説明してください。

問五 傍線3について次の問いに答えなさい。

(ア)「西欧の個性信仰の行き詰まり」とはどのようなことですか。現代の社会のできごとと結びつけて説明してください。

(イ)日本文化の伝統のどのようなところが(ア)に挙げた「行き詰まり」を切り開けると思いますか。本文全体をふまえて自分の言葉で説明してください。

また、大問二の設問は次のとおりです。

問一 (A)・(B)にあてはまる言葉を次のア~オから選び、記号で答えなさい。

ア みしみしと イ じりじりと ウ いっせいに エ ずけずけと オ つかつかと

問二 (C)にあてはまる、その時の由希の態度を示すひらがな五字のことばを答えなさい。

問三 傍線1での、万里絵と久美の気持ちを説明してください。

問四 傍線2での由希の気持ちを、本文全体をふまえて、二百五十字以内で説明してください。

大問一と大問二に共通点があることにお気づきでしょうか。気付かない方は次の大学入試問題をみてください。

問五 傍線の箇所(エ)『「行」というものが人間に対してもつ本質的な意義』とはどのようなものか、本文全体の趣旨をふまえて 60 字以内で説明せよ。(東北大)

問四 筆者は「歴史」と「自由」との関係性をどのようにとらえているのか。全体の論旨を踏まえた上で、120 字以内で説明せよ。(北海道大学)

もうお気づきだと思います。桜蔭中の国語では、大学入試と同じく「全体把握」を求めているのです。出題意図は、「コミュニケーション力」、つまり他者の意図を取り違えることなく汲み取る能力を試す点にあります。現代の学生にコミュニケーション力が不足しているという問題意識に裏付けられているのです。実際、国語の記述の採点をしていると、本文の一部分だけをまとめただけの答案であるために、筆者の問題意識とズレていると評価せざるを得ないものが多く見受けられます。




2006年の入試では大問一問五(イ)で自分の意見を述べる問題が復活しましたが、こうした設問で大きな差がつくことはありません。桜蔭必勝法は、文章全体を通じて筆者の言いたいことのど真ん中をつかめるかどうかにかかっています。

















桜蔭のようにボリュームのある文章の全体を把握する力を養うためには、段落ごとの内容をメモしながら読むとよいでしょう。初めは時間がかかりますが、慣れてくれば大きな武器になるはずです。物語文では、登場人物ごとの心情、場面の变化をメモするなり、マークをつけるなりして読みすすめてください。

また、2006年の大問一のような日本文化の特徴をめぐる本格的な論説文では、語い力がものをいいます。文章を読む中で分からない語句が出てきたら、必ず辞書を引くという習慣をつけておきましょう。

さらに、記述力を高めるために、文章を読んだら150字程度の要約文を書くようにしてください。一度や二度やただただでは意味がありませんから、週に1回と決めて実行するのがよいでしょう。

【3】 【 桜蔭国語 合格への道程 】

 合格可能性 80%	 合格可能性 50%	 合格可能性 10%
---	---	---

偏差値 (四谷)	51~55	56~60	61~65	66~70
君の学年				
5年生の2学期				
5年生の3学期				
6年生の1学期				
6年生の2学期				

桜蔭の80%合格圏(4科)は、四谷大塚で偏差値70以上、センター模試で偏差値67以上、サピックスで偏差値60以上、が目安です。

桜蔭の国語は国公立大学なみの難しさです。ですが、求められているのは筆者とのコミュニケーション能力です。そこに気付けば成績もみるみる上がることでしょう。半年がんばっても偏差値が60を上回ることができない人は、国語の勉強法を根本的に見直す必要があるでしょう。雨マークの人は、

⇒ [永田先生\(日能研\)の国語教室](#)

⇒ [国語偏差値20アップ学習法](#)